

# 史料探訪

	探訪先	目的	氏名	関係部門	頁	代表者
1	秋田県 秋田県公文書館	秋田県公文書館所蔵史料の調査・撮影	金子拓・畑山周平・林晃弘・林遼	中世・近世	78	金子拓
2	新潟県 新発田市立歴史図書館	新発田市立歴史図書館所蔵史料の調査・撮影	金子拓・畑山周平	中世	78	金子拓
3	神奈川県 浄光明寺	金子家史料の調査・撮影	林晃弘・高橋慎一朗	近世・古文書	79	高橋慎一朗
4	三重県 三重県総合博物館・片田自治会・立神区	三重県下中近世史料調査	山家浩樹・末柄豊・渡邊正男	中世・特殊	79	渡邊正男
5	三重県 神宮文庫	神宮文庫所蔵史料の調査	海上貴彦・榎原雅治・前川祐一郎	中世・近世	80	前川祐一郎
6	京都府 京都御所東山御文庫	京都御所東山御文庫における調査	田島公・末柄豊・渡邊正男・藤原重雄・新井重行・小塩慶・海上貴彦	古代・中世	80	新井重行
7	京都府 泉涌寺	泉涌寺史料の調査・撮影	谷昭佳・村井祐樹・林晃弘	中世・近世・技術	81	林晃弘
8	京都府 公益財団法人陽明文庫	公益財団法人陽明文庫所蔵『平記』『後法興院関白記』の原本校正	尾上陽介・井上聡・遠藤珠紀	古記録	81	遠藤珠紀
9	京都府 公益財団法人陽明文庫	陽明文庫所蔵史料の原本調査	田島公・小塩慶	古代	81	小塩慶
10	京都府 仁和寺	仁和寺所蔵史料(御経蔵等)の調査・撮影	新井重行・岡本真・小塩慶・尾上陽介・林晃弘・藤原重雄・川本慎自	古代・近世・古記録・特殊	81	川本慎自
11	京都府 醍醐寺	醍醐寺文書の原本校正	小瀬女士・高橋慎一朗	古文書	82	高橋慎一朗
12	京都府 醍醐寺	醍醐寺所蔵史料の調査・撮影	高山さやか・木下竜馬・林遼・高橋慎一朗	中世・古文書・技術	82	高橋慎一朗
13	京都府 京都府立京都学・歴史彩館	東寺百合文書の原本調査	高橋慎一朗・木下竜馬	古文書	82	木下竜馬
14	京都府 本願寺・東本願寺	本願寺・東本願寺所蔵史料の調査・撮影	末柄豊・村井祐樹	中世	82	村井祐樹

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
鹿児島県	熊本県	広島県	和歌山県	大阪府	大阪府	奈良県	奈良県	奈良県	奈良県	奈良県	京都府	京都府	京都府	京都府
鹿児島県歴史・美術センター黎明館・霧島市	熊本大学附属図書館	海の見える杜美術館	和歌山県立博物館	堺市	公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋	西大寺	元興寺	薬師寺	宮内庁正倉院事務所	東大寺図書館	賀茂別雷神社	京都府立京都学・歴史館	公益財団法人陽明文庫	青蓮院門跡
鹿児島県下所在史料の調査・撮影	『大日本近世史料 細川家史料』二十八原本校正、公益財団法人永青文庫所蔵・熊本大学寄託「細川家史料」の調査・撮影	海の見える杜美術館所蔵岩倉具視関係史料の調査・撮影	小川八幡神社大般若経の調査	堺市所在史料の調査・撮影	公益財団法人武田科学振興財団所蔵『實躬卿記』自筆本による原本校正	真言律宗総本山西大寺所蔵史料の調査・原本校正	元興寺所蔵史料の撮影	薬師寺所蔵史料の調査	正倉院文書調査	東大寺文書の原本調査	「賀茂別雷神社文書」の調査・撮影	東寺百合文書の原本調査	陽明文庫所蔵「近衛文書」の調査・撮影	青蓮院門跡吉水藏聖教調査撮影(二回)
平	高橋慎一朗・岡本真・小瀬玄士・畑山周	箱石大・立石了・谷昭佳・桑田恵里	山口英男・尾上陽介・遠藤基郎・新井重行・稲田奈津子	小瀬玄士・村井祐樹	菊地大樹・井上聡・遠藤珠紀・尾上陽介	末柄豊・高橋慎一朗・西田友広・小瀬玄士	新井重行・藤原重雄	海上貴彦・榎原雅治・及川亘・菊地大樹・小瀬玄士・林晃弘・前川祐一郎	山口英男・田島公・新井重行・稲田奈津子・黒須友里江・小塩慶	遠藤基郎・高橋慎一朗・西田友広・木下竜馬	石津裕之・遠藤珠紀・金子拓・木下竜馬・桑田恵理・高山さやか	木下竜馬	松澤克行・荒木裕行・山本一夫	(第一回) 菊地大樹・藤原重雄・石津裕之・林遼 (第二回) 菊地大樹・新井重行・林遼
特殊	近世・技術	近世・技術	古代・古文書・古記録	中世・古文書	古記録	中世・古文書	古代	中世・近世・古文書・古記録	古代	中世・古文書	中世・近世・古文書・古記録・技術	古文書	近世	古代・中世・近世・古記録
88	86	86	85	85	85	85	84	84	83	83	83	83	83	82
畑山周平	山口和夫	箱石大	稲田奈津子	村井祐樹	菊地大樹	小瀬玄士	藤原重雄	及川亘	稲田奈津子	遠藤基郎	金子拓	木下竜馬	松澤克行	菊地大樹

# 1 秋田県公文書館所蔵史料の調査・撮影

二〇二三年三月九日・一〇日、秋田県公文書館に出張し、同館所蔵史料の調査・撮影をおこなった。撮影したのは次の史料である。

〔佐竹文庫〕AS三二二―一―一―一五（小場源左衛門宛梅津半右衛門書状）

／AS三二七―三六―一―一四（諸家古文書目録）／AS三四二―二

（文禄五年御蔵江納帳）／AS三九三―二三（屋代越中守、高松内匠、木

村長門守、戸村十太夫書写）

〔県B〕六〇一―六九九（史料名略）

〔吉沢家文書〕一六六（家伝書）・一六七（御記録所考書）・一六八（小田部

平右衛門一件記録）・二三九（被仰渡）・二四〇（先祖書付）・二九五

（諸士由緒書上）・五六四（滑川一家系図）・五六五（滑川善右衛門・滑

川市之丞由緒書）

〔忍家文書〕一（白川晴綱・同義親連署判物）・二（白川義親証状）

〔泉明収集資料〕二（多賀谷重経書状）・三（松平信綱書状）・四（佐竹右京

大夫書状）

撮影にあたっては、秋田県公文書館古文書班の皆さまにたいへんお世話になった。感謝申し上げます。

（金子 拓・畑山周平・林 晃弘・林 遼）

# 2 新発田市立歴史図書館所蔵史料の調査・撮影

二〇二三年三月二四・二五日、新潟県新発田市に出張し、新発田市立歴史図書館所蔵史料の調査・撮影を行った。撮影史料は以下のとおりである。

〔豊田神社所蔵文書〕

天正九年四月一六日

（文禄三年）五月一七日

（年未詳）三月八日

慶長五年一〇月五日

織田信長朱印状写

豊臣秀吉朱印状写

長束正家・前田玄以連署状（廻文）

徳川家康書状写

慶長一三年四月一七日

（年未詳）五月二日

（年未詳）六月一四日

同右

（年未詳）七月九日

（慶長五年）九月二二日

（年未詳）一〇月二日

（年未詳）八月二八日

（年未詳）八月二六日

（年未詳）一〇月五日

（年未詳）一〇月一六日

（年月日未詳）

（年未詳）一月二日

同右

（年未詳）六月二二日

〔溝口伊織家文書〕

永禄八年六月二四日

天正一四年五月一五日

天正一四年一〇月一日

同右

天正一七年十二月日

同右

慶長一一年一〇月一四日

文禄四年六月三日

慶長六年閏一二月四日

元和五年一二月五日

寛永一五年三月一五日

（年月日未詳）

（年月日未詳）

溝口秀勝判物

徳川家康御内書

徳川家康書状

同右写

徳川家康書状写

徳川家康書状写

徳川家康書状写

徳川秀忠書状

徳川秀忠書状写

徳川秀忠書状写

徳川秀忠消息（せうふく院宛）

土井利勝書状

同右写

溝口無求書状

御家事簿

一冊

〔新発田市立歴史図書館所蔵文書〕

殿様御系図並慶長三年殿様御入国御供記

御朱印書替之節此後書上之分共御領分草高帳

御領内高付帳（慶長年間カ）

御知行所草高之御帳（写トモ、寛永一三年）

給知方村々高目録（慶長一〇年）

天正六年組付帳・元和三年御番帳・寛永八年組付帳写

慶長三年從御入城享保二十年迄御相与附

越後国蒲原郡之内井栗村御検地帳（文祿四年）

越後国蒲原郡賀茂村御検地帳（同右）

越後国蒲原郡賀茂上条村御検地帳（同右）

越後国蒲原郡猿毛村神明村御検地帳（同右）

越後国蒲原郡下条村御検地帳（同右）

越後国蒲原郡上条之内諸村御検地帳（同右）

御蔵納同払方帳（慶長一七年分）

銀子払帳（慶長一八年分）

惣帳（慶長一八年分）

万御作事入用（慶長一八年）

給知方ほと役銀帳（慶長一五年頃）

諸役銀子之帳（慶長一六年分）

諸役銀子之帳（慶長一七年分）

〔江戸上屋敷文書〕

慶長一五年一二月二八日

寛永一一年八月四日

徳川秀忠黒印状（領知充行）  
徳川家光朱印状（同右）  
調査にあたっては、新発田市立歴史図書館副参事鶴巻康志氏、および阿部洋輔氏に大変お世話になった。また、調査にあたっては、本所学術専門職員新保稔氏のご助力を賜った。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（金子 拓・畑山周平）

一帖

一冊

一冊

一冊

二冊

一冊

一冊

横帳一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

### 3 金子家史料の調査・撮影

二〇二二年九月九日、鎌倉市浄光明寺を会場にお借りし、同市居住の金子家敏氏が所蔵する武田流弓馬故実書の調査とデジタル写真撮影を行った。

（林 晃弘・高橋慎一朗）

### 4 三重県下中近世史料調査

二〇二二年一二月一五日～一九日、三重県下所在中・近世史料の調査・撮影を行った。今年度の調査地点は津市及び志摩市である。史料所蔵者各位及び調査に立ち会われた各位並びに御協力いただいた三重県総合博物館に厚く御礼を申し上げます。以下に調査先及び調査・撮影史料の概要を掲げる。

三重県総合博物館 津市

三重県総合博物館所蔵史料

一、天文一六年九月五日 蒲生氏郷知行宛行状

一、天文一六年九月五日 蒲生氏郷知行宛行目録

○服部早希「伊勢統治時代の蒲生氏郷をめぐる諸問題―新出の発給文書を手掛かりに―」（『三重県総合博物館研究紀要』第八号、二〇二二年三月）参照。

二年三月）参照。

藤井義昭氏所蔵史料

一、後一二月九日 藤堂高次書状

一、三月一日 藤堂高次書状

○前欠。

一、一二月一五日 藤堂高次書状

一、正月九日 藤堂高次書状

一、五月一四日 藤堂高次書状

一、正月一三日 藤堂高次書状

一、一二月七日 藤堂高次書状

○右三通、封筒にて一括。

（折紙）一通

（縦紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

（折紙）一通

一、九月七日 藤堂高通書状 (折紙) 一通

一、正月一四日 藤堂高通書状 (折紙) 一通

一、十一月二二日 藤堂高通書状 (折紙) 一通

一、五月二日 藤堂高通書状 (折紙) 一通

○右三通、塗箱に収める。  
一、二月三日 藤堂高敦書状 (切紙) 一通

一、八日 長氏書状 (続紙) 一通

一、(年月日未詳) 長氏書状 (続紙) 一通

一、四月九日 藤堂采女書状 (続紙) 一通

○右三通、封筒にて一括。  
一、五月六日 藤堂九兵衛書状 (続紙) 一通

一、五月一五日 富田知勝書状 (切紙・掛幅装) 一軸

一、閏一〇月二九日 親鸞書状写 (続紙・掛幅装) 一軸

○外題「堯朝上人御染筆 聖人七卷御書之内巻通 文化十一甲戌歲秋七月 □□寺第五世□空莊師遂功、」

○奥書「寛永十四曆丁丑八月五日 沙弥堯朝書之、(花押)」

片田自治会 志摩市

片田自治会所蔵大般若經

折本装(もと卷子装)。五九九帖。承和九(八四二)年頃書写と推定される「池上内親王願経」をはじめとして、平安時代から室町時代の経本が集められている。延宝二(一六七四)年頃、円空が欠巻を補い、修理するとともに、概ね一〇巻ごとの見返しに墨絵を描いた。三重県指定有形文化財。全巻の書誌事項調査、表紙・巻末・巻首の撮影を行っており、次年度以降も継続調査の予定。稲城信子「大般若経と勧進」特に三重県・片田漁業組合所蔵大般若経を中心に、「千葉乗隆博士古稀記念 日本の社会と佛教」永田文昌堂、一九九〇年)・「三重県総合博物館第三二回企画展 三重の円空 図録」(三重県総合博物館、二〇二二年)参照。  
立神区 志摩市  
立神区所蔵大般若経  
折本装(もと卷子装)。六〇〇帖。仁安・承安・建久・元久・正応等の奥

書が見られる。延宝二(一六七四)年、円空が欠巻を補い、修理するとともに、一〇〇巻を超える経巻の見返しに墨絵を描いた。三重県指定有形文化財。全巻の書誌事項調査、表紙・巻末・巻首の撮影を行っており、次年度以降も継続調査の予定。「三重県総合博物館第三二回企画展 三重の円空 図録」(三重県総合博物館、二〇二二年)参照。  
(山家浩樹・末柄 豊・渡邊正男)

### 5 神宮文庫所蔵史料の調査

二〇二二年九月一四日、三重県伊勢市の神宮文庫に赴き、『大日本史料第七編之三十五』に収める同文庫所蔵史料「道後政所職事」(第一門一〇〇一八号)および「応永外宮御神宝読合」(第一門二八五六号)の原本校正を行った。  
(海上貴彦・榎原雅治・前川祐一郎)

### 6 京都御所東山御文庫における調査

二〇二二年一月一日・三日・七日、京都御所に赴き、「天皇家・公家の「知」の体系としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクトの遂行、ならびに『大日本史料』二編・三編・八編・九編の原稿作成・校正等のため、東山御文庫御物の調査を行った。主な調査史料は以下の通り。  
勅封三五乙一 興福寺文書 四〇通  
勅封三八一 改元部類記 甲 三冊  
勅封三八一六三 改元記 永治度 一卷  
勅封四三一一 石清水八幡宮文書 四四通  
勅封四三一一五 春日社文書 五五通  
勅封四五一一 政部類記 一巻  
勅封四五一一三 外記政 一冊  
勅封四七一一〇 大饗御装束問事 一卷  
勅封四七一一七 大饗部類記(西宮記断簡) 一通

- 勅封四九一七 鎮護国家記 一卷  
 勅封四九一八 賀茂神宮寺觀音緣起 一通  
 勅封六二一〇一七 古今集聞書 三冊  
 勅封六七一五二〇 公事装束等 一冊  
 勅封六七一六一六 一代要記 四冊  
 調査には七名の所員が参加した。

(田島 公・末柄 豊・渡邊正男・藤原重雄・新井重行・小塩 慶・海上貴彦)

## 7 泉涌寺史料の調査・撮影

二〇二二年六月二五日、京都市泉涌寺宝物館に出張し、同寺所蔵の近世前期の天皇画像の調査・撮影を行った。また、古伽藍図についても原本の調査を行い、泉涌寺宝物館で作成されたデジタル画像データの提供を受け、閲覧室内の端末にて公開を行う許可を得た。

調査・撮影史料は左記の通りである。

- C 9 陽光院太上天皇画像 一幅  
 C 10 後陽成天皇画像 一幅  
 C 11-2 後水尾天皇画像 一幅  
 C 11-3 後水尾天皇画像 一幅  
 C 11-4 後水尾天皇画像 一幅  
 C 11-5 後水尾天皇画像 一幅  
 C 11-6 後水尾天皇画像 一幅  
 C 12 後光明天皇画像 一幅  
 C 42 古伽藍図 一幅

なお、『泉涌寺史』資料篇(法藏館、一九八四年)寺宝一覽・絵画11(図版46)の後水尾天皇画像は修理中のため撮影しなかった。

調査に当たっては同館学芸員西谷功氏・桑原優子氏・高山結衣氏に大変お世話になった。厚く御礼を申し上げる。

(谷 昭佳・村井祐樹・林 見弘)

## 8 公益財団法人陽明文庫所蔵『平記』『後法興院関白記』の原本校正

二〇二二年六月および二〇二三年三月に、京都市右京区の公益財団法人陽明文庫において、大日本古記録編纂のため同文庫所蔵の『知信記』自大治二年至五年(第十三函八号)・『時信記』大治五年・六年(第十三函九号)・『後法興院関白記』(第七函一五十三号)・『雜事要録』(一般文書目録二五七六九七七五)を閲覧し、原本校正を行った。

(尾上陽介・井上 聡・遠藤珠紀)

## 9 陽明文庫所蔵史料の原本調査

二〇二二年九月十五日に、京都市右京区の公益財団法人陽明文庫において、大日本古記録『陽明文庫本 勘例』の編纂のため、同文庫所蔵の『勘例自前大納言任大臣以下諸叙任例』(第十三函十九号)、『勘例納言以下諸例』(同二十号)、『除目旧例』(同二十一号)ほかの原本調査を行った。

(田島 公・小塩 慶)

## 10 仁和寺所蔵史料(御経蔵等)の調査・撮影

二〇二二年一月七日〜九日および二〇二三年三月六日〜八日、総本山仁和寺(京都市右京区御室大内)を訪れ、同寺所蔵史料のうち御経蔵第百十一箱〜第百十七箱、書籍第四十一箱、重要文化財「貞観寺根本目録」・「法勝院(領田地公驗紛失状)」について調査を行い、デジタルカメラによる撮影を行った。ただし、御経蔵第百十七箱については現物史料(仏具)のため撮影は行わなかった。

撮影目録については、箱単位での撮影途中であるため、撮影データの整理が終了した段階で次号以降に掲載する。

なお、本探訪には総本山仁和寺管財課学芸員朝川美幸氏にご高配を賜っ

た。記して御礼申し上げます。

(新井重行・岡本 真・小塩 慶・尾上陽介・林 晃弘・藤原重雄・川本慎自)

## 11 醍醐寺文書の原本校正

二〇二二年一月二七日より三〇日までの四日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、『大日本古文書 家わけ第十九 醍醐寺文書之十八』の出版準備のため、第二十五函の原本校正を行った。

(小瀬玄士・高橋慎一郎)

## 12 醍醐寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二二年九月二六日より三〇日までの五日間、京都市伏見区醍醐寺に出張し、継続事業として文書・聖教の原本調査および第四五四函のデジタル写真撮影を行った。

(高山さやか・木下竜馬・林 遼・高橋慎一郎)

## 13 東寺百合文書の原本調査

二〇二二年六月二〇日から二二日にかけて、京都府立京都学・歴史館(京都市京都市)において、『大日本古文書』東寺文書編纂のため、同館所蔵「東寺百合文書」ね函の文書の原本校正を行った。

(高橋慎一郎・木下竜馬)

## 14 本圀寺・東本願寺所蔵史料の調査・撮影

二〇二二年九月六〜七日、京都府京都市に出張し、東本願寺および本圀寺所蔵中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

(東本願寺)

【顕如上人雑記】

〔本圀寺〕

【本圀寺文書】

影写本『本圀寺文書』(三〇七一・六二・五〇/二五二) 参照。なお以下の文書は見当たらなかった。

観応二年二月二十七日足利直義書下

永祿十一年カ十一月 織田信長書状

永祿十二年八月十一日柴田勝家書状

【本圀寺雑記】

当日は、東本願寺財務部藤堅慈氏・組織部服部滉氏、本圀寺執事長代理北村寿教氏にはたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

(末柄 豊・村井祐樹)

## 15 青蓮院門跡吉水蔵聖教調査撮影

(第一回) 二二年九月二九日〜一〇月二日、京都府京都市青蓮院門跡に出張し、吉水蔵聖教の調査ならびに写真撮影を行った。

同聖教については、すでにマイクロフィルムにより大部分が撮影されているが、一部未撮影の部分等があり、また朱点その他の確認や永年保存・公開の観点からも、デジタルによる再撮影が必要となっていた。この間、同門跡による格段のご理解・ご配慮により本事業の開始に至った。本事業は悉皆撮影を目標に、継続的に実施の予定である。第一回は、第一函〜第六函―三までを撮影した。

なお本事業は、龍谷大学阿部泰郎特任教授・道元徹心教授他のご協力を得て開始した。

(菊地大樹・藤原重雄・石津裕之・林 遼)

(第二回) 二三年一月三一日〜二月三日、京都府京都市青蓮院門跡に出張し、吉水蔵聖教の調査ならびに写真撮影を行った。第二回は、第六函―四〜第八函―六―七までを撮影した。

今回も、特段のご高配を賜った青蓮院門跡に謝意を表する。また、龍谷大学阿部泰郎特任教授・道元徹心教授他のご協力を得て継続している。

(菊地大樹・新井重行・林 遼)

## 16 陽明文庫所蔵「近衛文書」の調査・撮影

令和五年三月一三日より一四日まで公益財団法人陽明文庫に出張し、同文庫が所蔵する「近衛文書」のうち、「公事儀式篇(一) 踐祚」に分類される五〇五袋〜五〇七袋の史料八三点を調査・撮影した。

(松澤克行・荒木裕行・山本一夫)

## 17 東寺百合文書の原本調査

二〇二三年三月一日、京都府立京都学・歴史館(京都府京都市)において、『大日本古文書』東寺文書編纂のため、同館所蔵「東寺百合文書」ね函の文書の原本校正を行った。

(木下竜馬)

## 18 「賀茂別雷神社文書」の調査・撮影

二〇二二年六月一日〜二一日、および二〇二三年二月七日〜九日・三月一六日〜一八日の三度にわたり賀茂別雷神社(京都市北区)に出張し、同社所蔵文書の調査・デジタル撮影を行った。近年の本所による撮影は、同社のご協力を得て、二〇一〇年度より継続して行っている。二月の調査では、拠点特定共同研究の共同研究員高橋敏子氏のご助力を得た。

「賀茂別雷神社文書」については、一九九七年度〜二〇〇二年度にかけて京都府教育委員会が、一九四五年(昭和二〇)以前の文書の網羅的調査を実施し、目録を刊行している(『京都府古文書調査報告書第十四集 賀茂別雷神社文書目録』京都府教育委員会 二〇〇三年三月)。今回撮影した史料は、左記のとおり(番号は目録のもの)。

I (収蔵庫) — A (卷子装文書) — 九

I — C (唐櫃) — 四、六、七

II (土蔵) — A (祭祀・神事) — 二(競馬) — 二、六四/II — A — 三(御

戸代能) — 二/II — A — 七(神事一般) — 三〇

II — B (社司・氏人) — 二(職掌) — 一五五、一九四

II — C (遷宮・造替) — 一〜三〇三

II — D (撰社・末社) — 一(貴布祿) — 四四五/II — D — 三(寺庵) — 一九

II — E (賀茂六郷) — 四(社家町) — 一〜二二四/II — E — 五(賀茂川)

— 一〜三六/II — E — 六(山) — 一〜四五(Eは全点の撮影を完了した)

IV (社務所) — C (社殿) — 一三三

(石津裕之・遠藤珠紀・金子 拓・木下竜馬・桑田恵理・高山さやか)

## 19 東大寺文書の原本調査

二〇二三年二月六日より一〇日まで、奈良市東大寺図書館において、『大日本古文書』家わけ第十八 東大寺文書之二十五(二〇二三年九月刊行予定) 編纂のため、東大寺文書未成巻文書第一部第二四(雜莊)他につき、文字翻刻と料紙情報の確認に重点をおいた原本調査を行った。

(遠藤基郎・高橋慎一朗・西田友広・木下竜馬)

## 20 正倉院文書調査

二〇二二年年度の正倉院文書調査は、一月七日〜八日の二日間、宮内庁正倉院事務所(奈良市雜司町)に出張し、調査室において原本調査を実施した(『新型コロナウイルス感染症対応により日程を調整』。本年は、『正倉院文書目録』九・続々修四(二〇二三年三月刊行)に収録した第一三帙〜第一六帙(合計三五巻)の調査を行った。

正倉院文書閲覧の許可を与えられ、調査・研究に関して便宜をお図りいただいた宮内庁及び正倉院事務所に厚く謝意を表す。

(山口英男・田島 公・新井重行・稲田奈津子・黒須友里江・小塩 慶)



## 21 薬師寺所蔵史料の調査

二〇二二年七月一―一五日に奈良県奈良市の薬師寺に出張し、奈良文化財研究所と共同で同寺所蔵史料の調査（調査作成・原本校正および撮影）を行った。今年度の撮影分は、五函（一―一〇三号止）・六〇函（一―一三四号止）である。

（海上貴彦・榎原雅治・及川 亘・菊地大樹・小瀬玄士・林 晃弘・前川祐一郎）

## 22 元興寺所蔵史料の撮影

二〇二三年一月二―一三日に奈良市・元興寺（真言律宗）へ出張し、同寺所蔵の印仏紙背文書および聖教・文書類を調査・撮影した。この採訪は、二〇二二年度共同利用・共同研究拠点一般共同研究「中・近世畿内寺院史料の調査・研究と研究資源化―大和元興寺および和泉池辺家史料を中心とする―」にて予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期したものである。同寺住職辻村泰善氏よりご高配を賜り、現場では元興寺文化財研究所の高橋平明氏・服部光真氏、および元研究員の念仏寺住職三宅徹誠氏にはお世話になり、種々ご教示を賜った。記して謝意を表す。以下、簡単な撮影目録を掲げる。印仏の細目や『日本仏教民俗基礎資料集』元興寺極楽坊一―七（中央公論美術出版、一九七四―八〇年）・『図説元興寺の歴史と文化財』（吉川弘文館、二〇二〇年）との対応は割愛し、Hi-CAT Plusに登録する。これ以前の本所としての採訪は、一九五九年にマイクロフィルムによる撮影があるが、「夫婦和合祭文・離別祭文」に止まる。今回は弘法大師坐像納入品を中心に残り分を撮影予定である。

- 百万返念仏引付 一巻
- 夫婦和合祭文 一巻 ※紙背康暦二年具注暦
- 離別祭文 一巻 ※同前
- 荒神和讃 一巻

● 仮名暦（応永十四年） 一巻 ※版、地藏菩薩坐像印仏あり

● 法華経（折本経） 三九帖＋表紙のみ四帖

● 梵網経 第十（前欠） 一巻 ※春日版、弘長二年識語

● 法華経 卷第六（前後欠） 一巻 ※春日版（心性版か）

● 法華経 卷第七（前欠） 一巻 ※版、明応年間識語

● 仏説阿弥陀経 一巻 ※安政三年版本

● 仏説無量寿経 下 一巻 ※前と僚巻

● 大宝積経 卷第二 一巻 ※平安写

● 大般若経 卷第五百七十三（前欠） 一巻 ※中世版本、擬講快憲識語

● 阿毘達磨俱舍論 卷第二十三 一巻 ※奈良写

● 某疏（前欠） 一巻 ※平安写

● 法華経 卷第一（前後欠） 一巻 ※写、界線あり

● 法華経 卷第四（前欠） 一巻 ※写

● 法華経 卷第八（前欠） 一巻 ※写

● 鎮土作法 一帖 ※写、葉王山医光寺有淨

● 悉曇書（前欠） 一巻 ※写、貞和二年融濟本奥書・応永卅二年勢珍奥書

● 観世音経 一帖 ※版

● 法華経 卷第五（残闕・末尾のみ） 一帖 ※版

● 阿毘達磨俱舍論 第八（残闕・冒頭のみ） 一帖 ※写、久米田寺旧蔵

● 残闕等 一巻

● 曼荼羅記 一巻

※内題「南都元興寺之別院極楽坊智光法師之曼荼羅事」。表紙見返し「極楽院住持尊静／奉修補智光曼荼羅記／明和七（庚寅）年十月十四日」、金界線ワレ、

● 莊嚴極楽院記 上 一巻

※内題「莊嚴極楽院記上」、漢字かな混じり、明治廿八年中村雅真寄附、

● 極楽院記 一巻 ※小軸、漢字かな混じり、

● 極楽坊記 一冊

※近世写、内題「平城新元興寺極楽坊記／河南沙門投李集」、永正十二

年記、

・極楽坊記

一巻 ※近世写、前に同じ、平成十年

寄贈、

・摂津多田院御祈禱目録

一紙 ※天和二年正月日

・旧幕府受封判物写拾二通

一冊 ※慶長七年〜万延元年

・幕府朱印状写

一卷(六通) ※慶長七年〜享保三年

・印仏 No.1〜4箱

四箱 ※細目割愛

(以下、像内納入品のうち展示ケース分)

・太子結縁人名帳

一冊 ※聖徳太子立像納入品

・眼清願文

一紙 ※同前

・太子千杯供養札

八枚(六五一枚のうち) ※同前

・愛染明王坐像朱印仏

二枚(四二枚のうち) ※同前

・珠禪敬白文

一紙 ※同前

・結縁交名状断簡

一紙 ※同前

・摺仏聖徳太子立像

二枚(一四枚のうち)

※聖徳太子立像納入品

(新井重行・藤原重雄)

### 23 真言律宗総本山西大寺所蔵史料の調査・原本校正

二〇二二年一月一七日から二二日にかけて、奈良県奈良市の真言律宗総本山西大寺に出張し、同寺所蔵史料の調査・原本校正を実施した。

前年に引き続き次期大日本古文书刊行に向け、一〇一函〜一〇六函の原本校正を行なった。

コロナ禍のなか、調査にあたっては、同寺清浄院御住職佐伯俊源先生の手厚い御協力・御配慮を賜った。この場を借りて心から御礼を申し上げます。

(末柄 豊・高橋慎一朗・西田友広・小瀬玄士)

### 24 武田科学振興財団所蔵『實躬卿記』自筆本による原本校正

二二年九月四〜八日および、二三年一月一〜一三日(菊地・遠藤のみ)、大阪府大阪市武田科学振興財団杏雨書屋において、『實躬卿記』自筆本により、大日本古記録『實躬卿記』一〇の出版に必要な原本校正を行った。

(菊地大樹・井上 聡・遠藤珠紀・尾上陽介)

### 25 堺市所在史料の調査・撮影

二〇二二年六月二八〜二九日、大阪府堺市に出張し、所在中世史料の調査・撮影を行った。主な撮影史料は以下の通り。

〔大阿弥陀経寺文書〕

〔小谷城郷土館所蔵文書〕堺市博物館寄託

〔北十万文書〕堺市博物館寄託

当日は、大阿弥陀経寺ご住職様およびご家族、堺市博物館渋谷一成氏にはたいへんお世話になった。記して謝意を表する。

(小瀬玄士・村井祐樹)

### 26 小川八幡神社大般若経の調査

史料編纂所共同利用・共同研究拠点二〇二二〜二三年度特定共同研究「奈良平安時代の大規模写経群形成に関する史料学研究―小川八幡神社大般若経を核として―」(代表：稲田奈津子)の一環として、和歌山県紀美野町・小川八幡神社に伝来した大般若経の調査を、寄託先の和歌山県立博物館において、八月三一日〜九月二日、三月一五日〜一七日の二回にわたって実施した。前者には川尻秋生氏(早稲田大学)・杉本一樹氏(宮内庁正倉院事務所)、後者には杉本一樹氏・西本昌弘氏(関西大学)・野尻忠氏(奈良国立博物館)・矢越葉子氏(明治大学・研究推進員)の参加を得た。今年度の調査

では料紙・紙質・書風の分析に重点を置き、高島晶彦・宮崎肇（本所技術部）、渋谷綾子（本所前近代日本史情報国際センター）が調査に加わりデータの収集をおこなった。料紙調査の過程で、後次のな付着物質の存在が指摘されたため、二月二四日に野尻忠氏・荒木臣紀氏（奈良国立博物館・保存修理指導室）の協力を得て非破壊による蛍光エックス線分析を実施し、ヒ素などの有毒物質ではないことを確認した。小川八幡神社大般若経については、共同利用・共同研究拠点の項および一昨年度の所報・採訪報告を参照された。

調査にあたっては、共同研究メンバーの竹中康彦氏・坂本亮太氏（和歌山県立博物館）にご参加いただき多大のご尽力を得た。記して感謝申し上げる。（山口英男・尾上陽介・遠藤基郎・新井重行・稲田奈津子）

## 27 海の見える杜美術館所蔵岩倉具視関係史料の調査・撮影

二〇二二年二月七日～一日、海の見える杜美術館（広島県廿日市市大野亀ヶ岡一〇七〇一）に出張し、同館所蔵「岩倉具視関係史料」のうち「功臣遺墨」第三十一巻～第六十巻の調査・撮影を行なった。なお、調査・撮影にあたっては、同館学芸員の今城誥禮氏・青木隆幸氏にたいへんお世話になった。記して感謝申し上げたい。

（箱石 大・立石 了・谷 昭佳・桑田恵里）

## 28 『大日本近世史料 細川家史料』二十八原本校正、公益財団法人永青文庫所蔵・熊本大学寄託「細川家史料」の調査・撮影

二〇二二年九月六日から八日まで熊本大学附属図書館に出張し、『大日本近世史料 細川家史料』編纂のため同二十八（二〇二三年三月発行）の原本校正と同二十七（二〇二二年三月発行）底本再綴を実施し、近世史料を調査・撮影した。

対象史料の通し番号（熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『熊本大学寄託永青文庫資料総目録』所載）等を次に記す。

【原本校正】

通し番号	目録番号	年代	史料名	頁数
29857	10.23.16	寛永十八年	公儀	一冊
29858	10.23.17	寛永拾八年	公儀	一冊
29859	10.23.18	寛永十八年	公儀御案文	一冊

【底本整綴】

29855 10.23.14 寛永拾七年

公儀御書案文

一冊

【調査撮影分】

18666	神雜 1.3.10	(近世)	(包紙)	一点
18667	神雜 1.3.11	延享二年十二月廿二日	(細川宗孝起請文写)	一通
18668	神雜 1.3.12	延享二年十二月廿二日	(細川宗孝起請文写)	一通
18669	神雜 1.3.20	(近世)	(包紙)	一点
18670	神雜 1.3.21	延享二年九月	(細川宗孝起請文案)	一通
18671	神雜 1.3.22	延享二年九月	(細川宗孝起請文案)	一通
18672	神雜 1.3.23.0	(近世)	(包紙)	一点
18673	神雜 1.3.23.1	延享二年月日	(細川宗孝起請文案)	一通
18674	神雜 1.3.23.2	延享二年月日	(細川宗孝起請文案)	一通
18675	神雜 1.3.3	寶曆十年六月	(細川重賢起請文案)	一通
18676	神雜 1.3.4.0	(近世)	(包紙)	一点
18677	神雜 1.3.4.1	天明七年五月十四日	(細川治年起請文写)	一通
18678	神雜 1.3.4.2	(天明七年五月十四日)	(細川治年起請文前書案)	一通
18679	神雜 1.3.5.0	(近世)	(包紙)	一点
18680	神雜 1.3.5.1	天明七年十一月十二月廿六日	(細川斉茲起請文案)	一通
18681	神雜 1.3.5.2	(天明七年十二月廿六日)	(細川斉茲起請文案)	一通
18689	神雜 1.5.1	天明八年七月日	條々	一通

18699	神雜 1.52	天明八年七月日	條々	一	18886	神雜 1.344	(寛永十一年) 閏七月五日 (堀三右衛門書状)	一通
18700	神雜 1.53	天明八年戊申七月日	條々	一	18887	神雜 1.345	(寛永十一年) 閏七月三日 (神尾主水正書状)	一通
18701	神雜 1.54	文化元年甲子十月日	條々	一	18888	神雜 1.346	(寛永十一年) 閏七月四日 (曾我又左衛門書状)	一通
18702	神雜 1.55	文政四年三月朔日	條々	一	18896	神雜 1.357	(寛永十二年) 二月廿七日 (堀丹後守書状)	一通
18775	神雜 1.171	延寶九年八月廿五日	(伺書)	一	18920	神雜 1.41	(寛永十六年) 正月十八日 (日根野織部正書状)	一通
18776	神雜 1.172	慶安四年四月廿八日	御腰物目錄	一	18954	神雜 1.455	(近世) 三月十四日 (伺書)	一通
18777	神雜 1.173	(寛文十一年) 五月十一日	(伺書)	一	18958	神雜 1.459	御なへさま御こそてのおほへ	一通
18805	神雜 1.231	(寛文六年) 正月廿日	(下間式部卿書状)	一	18961	神雜 1.463	(寛文四年) 七月廿日 (伺書写)	一通
18806	神雜 1.232	(寛文四年) 五月七日	(伺書)	一	18964	神雜 1.466	寛永拾壹年十一月廿八日	一通
18807	神雜 1.233	(近世) 八月廿四日	(書状)	一	18988	神雜 1.515	(寛文十年) 御小屋惣くわのかこいノ竹木	一通
18811	神雜 1.237	(近世) 六月廿二日	(伺書)	一	18994	神雜 1.51.11	(寛文六年) 二月十五日 隠居罪科之覚	一通
18812	神雜 1.24	(近世)	覚	一	18995	神雜 1.51.12	寛文四年八月八日 返事文案	一通
18813	神雜 1.25.1	(寛文十二年) 十月廿一日	(書状写)	一	19019	神雜 1.54.2	寛文三年十二月十九日 覚	一通
18814	神雜 1.25.2	(寛文十二年) 霜月七日	(書状写)	一			江戸御屋敷御納戸小間物所古木方御馬具方二有之	一通
18815	神雜 1.25.3	(寛文十二年) 八月六日	(書状写)	一			古物御用ニ不立分萬治元年ニ相改候て賣拂申代銀	一通
18816	神雜 1.25.4	(寛文年間) 三月廿五日	(請状写)	一			御国江取下シ御借方所ニて借申銀子之覚	一通
18840	神雜 1.29.1.0	(近世)	(包紙)	一	19020	神雜 1.54.3	(寛文五年)	一通
18841	神雜 1.29.1.1	(近世) 八月廿一日	(書状写)	一	19028	神雜 1.55.6	西ノ十一月十五日 江戸大廻ニ遣	一通
18842	神雜 1.29.1.2	(近世) 八月八日	(書状写)	一	19030	神雜 1.55.8	(近世) 二月十五日 覚	一通
18843	神雜 1.29.2	(寛文六年) 正月廿日	(書状写)	一	19031	神雜 1.55.9	(近世) 刁ノ二月六日 (伺書)	一通
18844	神雜 1.29.3	(承応二年) 十二月朔日	(書状写)	一	19036	神雜 1.57.1	寛文五年七月十一日 條々	一通
18845	神雜 1.29.4.1	(寛文三年) 極月晦日	(書状写)	一	19037	神雜 1.57.2	寛文五年七月十一日 定	一通
18846	神雜 1.29.4.2	(寛文三年) 二月廿日	(書状写)	一	19038	神雜 1.57.3	(寛文十年) 権現様三拾五箇條浄土宗江御法度	一通
18847	神雜 1.29.5	(承応三年)	口上覚	一	19040	神雜 1.57.5	寛文五年七月十一日 定	一通
18848	神雜 1.29.6	(承応二年) 霜月廿一日	(書状写)	一	19048	神雜 1.59.1	寛文四年八月十九日 證文之事	一通
18856	神雜 1.31.1	(寛永元年)	二條御普請衆知行高組割	一	19049	神雜 1.59.2	辰ノ(寛文四年) 八月十九日 (達書写)	一通
18873	神雜 1.31.4	天和二年二月日	條々	一	19050	神雜 1.59.3	(寛文四年) 八月十九日 (達書写)	一通
18883	神雜 1.34.1	(寛永十一年) 後七月四日	(小堀遠江守書状)	一	19051	神雜 1.59.4	(寛文四年) 八月十六日 (伺書)	一通
18884	神雜 1.34.2	(寛永十一年) 後七月四日	(酒井讚岐守書状)	一	19053	神雜 1.60.2	万治貳年三月廿八日	一通
18885	神雜 1.34.3	(寛永十一年) 後七月四日	(土井大炊頭書状)	一				一通

19068	神雜 1.63.1	(寛永十八年)	公儀御普請二付御自分分請取申物	一冊	(年未詳) 六月六日	島津家久書状
19071	神雜 1.63.4.1	寛永拾八年三月	(寛)	一通	(年未詳) 六月十一日	島津家久書状
19078	神雜 1.64.1.1	(文久二年) (二月)	差出シ	一通	(年未詳) 十二月七日	島津家久書状
19079	神雜 1.64.1.2	(文久二年) (二月)	條々	一通	(年未詳) 四月十八日	島津家久書状
19080	神雜 1.64.1.3	元文三年八月朔日	條々	一通	(年未詳) 十一月二十日	島津家久書状
19081	神雜 1.64.1.4	(文久二年) (二月)	條々	一通	(年月日未詳)	島津家久書状
19082	神雜 1.64.1.5	(文久二年) (二月)	條々	一通	(年未詳) 四月三日	島津家久書状
19083	神雜 1.64.1.6	(文久二年) (二月)	條々	一通	(年未詳) 四月二十一日	島津家久書状
19084	神雜 1.64.1.7	(文政五年) (四月)	條々	一通	(年未詳) 五月二日	島津家久書状
19085	神雜 1.64.1.8	(文化十三年) (四月)	條々	一通	(年未詳) 五月七日	島津家久書状
19086	神雜 1.64.1.9	(文久二年) (二月)	條々	一通	(年未詳) 五月八日	島津家久書状

閲覧調査に際し公益財団法人永青文庫および熊本大学附属図書館各位のご配慮を得た。記して感謝申し上げます。

(高島晶彦・林 晃弘・山口和夫)

## 29 鹿児島県下所在史料の調査・撮影

二〇二二年一月一七日から一九日にかけて、鹿児島県鹿児島市に出張し、鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵史料の調査・撮影を行った。また、同県霧島市に出張し、同市所蔵史料の調査・撮影を行った。撮影史料は以下の通り。

〔鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵史料〕

(年未詳) 三月十八日	島津家久書状	藤原姓島津氏庶流豊州家系図
(文久二年二月写)	朝鮮軍記	
(年月未詳) 十二日	島津家久書状	
(年未詳) 七月二十二日	島津家久書状	
(年未詳) 三月三日	島津家久書状	
(寛永八年カ) 二十日	島津家久書状	

(年未詳) 六月六日	島津家久書状	
(年未詳) 六月十一日	島津家久書状	
(年未詳) 十二月七日	島津家久書状	
(年未詳) 四月十八日	島津家久書状	
(年未詳) 十一月二十日	島津家久書状	
(年月日未詳)	島津家久書状	
(年未詳) 四月三日	島津家久書状	
(年未詳) 四月二十一日	島津家久書状	
(年未詳) 五月二日	島津家久書状	
(年未詳) 五月七日	島津家久書状	
(年未詳) 五月八日	島津家久書状	
(年未詳) 五月十三日	島津家久書状	
(年未詳) 五月二十三日	島津家久書状	
(年未詳) 六月十八日	島津家久書状	
(寛永八年カ) 六月二十七日	島津家久書状	
(年未詳) 八月二十四日	島津家久書状	
(年未詳) 十月十四日	島津家久書状	
(寛永十年カ) 十月二十四日	島津家久書状	
(年未詳) 十一月三日	島津家久書状	
(年未詳) 三月七日	島津家久書状	
(年未詳) 三月二十八日	島津家久書状	
(年月未詳) 三日	島津家久書状	
元弘三年四月八日	後醍醐天皇綸旨	
〔大迫文書〕	○鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵	
〔鹿児島県史料	旧記雑録拾遺	家わけ六〕参照。
〔南聘紀考〕	○鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵	
〔鹿児島県史料	旧記雑録拾遺	伊地知季安著作史料集六〕参照。
〔高雲堂頌詠集〕	○鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵	
〔鹿児島県史料	旧記雑録拾遺	伊地知季安著作史料集七〕参照。

〔藤原姓伊東氏系図〕○鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵

『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 伊地知季安著作史料集八』参照。

〔三光院史料〕○霧島市所蔵

永祿四年九月吉日

日秀授良源印信

安永八年十月日

日秀上人行状記

日秀上人縁起

梵字曼荼羅

梵字名号

大通智勝如来名号

〔万膳家文書〕○霧島市所蔵

〔慶長四年〕十月二十四日

島津維新（義弘）書状

寛文九年五月吉日

義弘様諸外城より被召寄軍談合之人数

天明二年卯月吉祥日

兵道三略守書

万善家記録

万善家系図

調査にあたっては、鹿児島県歴史・美術センター黎明館の吉村晃一氏、霧島市教育委員会の坂元祐巳氏・小水流一樹氏に大変お世話になった。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

（高橋慎一朗・岡本 真・小瀬玄士・畑山周平）